



馬の学校

# 馬の学校通信

2005. 12 vol.20



発行 馬の学校

事務局 〒560-0084 大阪府豊中市新千里南町 3-27-26 TEL/FAX : 06-6832-8455

E-mail : mine@dp.u-netsurf.ne.jp ホームページ : http://www.horseschool.org



## 秋のプログラム 活動報告



### 馬と遊ぼう (10/2)



広い公園で馬に乗ったり、ブラシをかけたり、クイズに答えたり・・・

馬と一日楽しく遊びました

### ファミリープログラム (10/29)



「気持ちいいなあ(アン)

「もうちょっとかな?」

「かっこいいでしょ!」

### 馬とのふれあいプログラム (10/9、11/20)



「怖いけど、さわりたい・・・」

速歩にも挑戦しました

「はやくちょうだい!」



「う〜ん最高!」(ホップ)

おしりにタッチ

「ホップ、こっちだよ〜」



## 2005年 活動報告



- 3月12日 馬とのふれあいプログラム (服部)
- 3月25~28日 ウマキャンプ (清里)
- 4月17日 馬とのふれあいプログラム (枚方)
- 4月23日 ファミリープログラム (和知)
- 5月 1日 ファミリープログラム (和知)
- 5月14~15日 こうまキャンプ (和知)
- 5月22日 キッズプログラム (枚方)
- 6月 5日 馬とのふれあいプログラム (服部)
- 7月30~8月2日 ウマキャンプ (清里)
- 8月 5日 大阪 YMCA 国際専門学校  
乗馬体験プログラム (和知)
- 8月13~15日 「馬と友達になろう」(高知)
- 10月 2日 「馬と遊ぼう」(長野)  
\*子どもゆめ基金助成事業
- 10月 9日 馬とのふれあいプログラム (服部)
- 10月29日 ファミリープログラム (和知)
- 11月20日 馬とのふれあいプログラム (服部)

## 保護者へのアンケートから



### ファミリープログラム

家族にとってよかったことは・・・

- ・家族みんなが一つのことに取り組めたこと。
- ・親も子ども対等の立場に立って馬の「生徒」になったこと。つまり共通の「先生」を持てたこと。
- ・子どもと一緒に過ごせたこと。馬と関わっている子どもの表情を見られたこと。
- ・馬の話で盛り上がった。
- ・家族一人一人の今まで気付かなかった部分(個性)を見つげられた。





## ウマコンテスト 結果発表！

\*作品はホームページで見ることができます\*



### 絵：子どもの部

優秀賞 長野県 平林 ゆりさん（6歳）  
 準優秀賞 長野県 小高 潤 さん（9歳）  
 ユーモア賞 長野県 松井 拓郎さん（7歳）  
 馬と遊ぼう賞 長野県 小嶋 比奈子さん（8歳）  
 パカパカ賞 長野県 平林 まりさん（8歳）



平林ゆりさん「うまのおやこ」

### 絵：幼児の部

優秀賞 長野県 長曽我部 悠月さん（4歳）  
 準優秀賞 長野県 本間 紗矢加さん（4歳）  
 馬と遊ぼう賞 長野県 内藤 京子 さん（5歳）  
 作文：子どもの部  
 馬と遊ぼう賞 大阪府 二條 真理菜さん（8歳）



長曽我部 悠月さん「でっかいうま」

## ドイツ「子ども農場」訪問報告

ドイツには、馬をはじめとするさまざまな動物がいる「子ども農場」と呼ばれる遊び場がたくさんあります。施設によって異なりますが、今回訪問したブレーメンにある子ども農場は、午前中は学校単位での利用ができ、午後からは学校を終えた子どもたちが来て自由に遊ぶことができます。中でも毎日ある乗馬レッスンは大人気。さらに週に1回は、軽度発達障害などの子どもたちを対象に小グループでの乗馬レッスンも行っているとのこと。馬だけでなく、うさぎや羊、ヤギ、ロバとも遊ぶことができる、とても楽しい農場でした。



ブレーメン市内からバスを乗り継いで約40分。

午前中は、近くの特設学校の子どもたちが体験学習に来ていました。



小グループでは、準備の中でお互いに協力することを学びます。この日は、保護者の方に見てもらおう発表会の練習をしていました。



### 編集後記

早いもので2005年ももうすぐ終わろうとしています、皆さまにとってはどんな1年だったでしょうか？馬の学校では、いろいろと新しいプログラムに取り組み、それぞれにとっても意味があると感じられたことが大きな収穫でした。継続する中で、よりよいものを創り出す努力をしていきたいと思います。

また12月には、子どもと馬とのかかわりを学ぶために、約2週間ドイツに行ってきました。8年前に訪れた施設（子どもたちの保護・支援施設）に1週間ほど滞在し、残りはドイツ国内の「子ども農場」と呼ばれる馬やいろいろな動物がいる遊び場を訪問してまわりました。ドイツでは、障害を持つ子どもたちだけでなく、様々な社会的問題を抱える子どもたちの教育にも馬が生かされており、馬の持つ力の大きさを再確認しました。日本でも、たくさんの子どもたちが馬とのかかわりの中で学ぶ機会が得られるようになればと思います。後日、ホームページに報告を掲載予定ですので、お楽しみに！（峯崎 友香理）

